



## フェイク・バスターズ 選挙とフェイク

放送日:2020年12月18日 放送時間:30分

対象校種 中学校 高校

対象教科 情報 公共 総合

### この番組の良さ



#### ● インターネットと選挙

インターネットが選挙においても大きな影響力を持ち、アメリカ大統領選の際にフェイクニュースを用いた情報操作が行われた事例を取り上げています。インターネットは発信が容易で拡散のスピードが速く、意図的に操作された情報が、検証される間もなく拡散され続けてしまいます。対立候補を陥れようとするデマ合戦によって、混乱する選挙戦の様子が描かれており、有権者の情報収集のあり方について考えさせられます。

#### ● 確証バイアスとインターネット

インターネットは自分の求める情報が集まりやすく、自分の思い込みを助長しやすい状態(確証バイアス)に陥りやすいといえます。情報は一次情報か、発信者は誰か、どんな根拠に基づいているのか、ファクトチェックや自分と異なる意見についても検討する重要性など、メディアリテラシーが現代人にとって一層不可欠となっていることを実感できます。

### 番組活用のポイント

#### ● インターネットと主権者教育

選挙権が18歳に引き下げとなり、高校生はもちろん、中学生も選挙について考えることが重要となっています。生徒たちはインターネットを情報収集の主な手段としており、選挙においても同様であると考えられます。選挙に対する責任、有権者としてどのようにふるまうべきか、インターネットというメディアの特性と絡めながら学び、主権者として行動していくことが求められます。

#### ● フェイクニュースや陰謀論

番組では、映像を編集してあたかも事実であるかのように見せかけたフェイクニュースや、人々の不安につけ込む陰謀論が紹介されます。同様の問題は以前から存在していましたが、現在ではフェイク情報や問題のある情報がさらに巧妙に作成されています。インターネットによって目にする機会や対象も広がり、それらの情報に洗脳されてしまう人や鵜呑みにしてしまう子供たちが増えています。特定の情報に偏った判断が危険であることを示しており、ファクトチェックを行ない、多様な意見、自分と異なる意見にも触れながら自己の考えを形成することの重要性について気づくことが大切です。

#### ● 今後のテクノロジーとフェイク情報

番組では異なる場面の映像を入れ替える編集によって誤った印象を与えるフェイク映像が取り上げられています。テクノロジーの発達によって、フェイク映像はさらに巧妙化している現状があります。例えば、ディープラーニングによるAI技術を使い、CGや合成音声によって、あたかも本人が話しているような映像を作り出すことが可能になっています。テクノロジーの発達とその留意点や、AI技術の倫理観についての議論を行う授業も考えられます。



執筆者  
特定非営利活動法人みんなのコード  
学校教育支援部講師

永野 直